

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201056		
法人名	医療法人仙知会		
事業所名	グループホームさくら 1		
所在地	青森県弘前市高杉字五反田173-7		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokai.gov.go.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0270201056&amp;SCD=370">http://www.aokai.gov.go.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0270201056&amp;SCD=370</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所はりんご畑に囲まれた静かな環境の中に立地している。敷地内には関連法人の有料老人ホームをはじめ、多様なサービスの事業所が隣接しており、トータル的にサービスが受けられるシステムとなっている。同敷地内のイベントなどへの参加を通して地域の方々と積極的に交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

敷地は広く利用者の散歩には良い環境にある。広報紙として毎月家族へ写真と連絡、コメント、利用者の状況などを記入して送られ、家族にとっては、写真や状況報告が受けられ、安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「住み慣れた町で笑顔あふれる雰囲気やゆっくりとその人らしく暮らす」を運営理念として掲げ全職員で共有し日々の中で話し合い実践につなげている。	職員全員にアンケートをとり、意見を出し合い理念を作り上げている。業務の引き継ぎ時には理念を唱和し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域との相互関係を築き、孤立することなく「暮らし」を営むためにつきあいを探ることを大切にしている。地域の幼稚園との交流や敬老会へ参加している。	幼稚園児が来訪したり地域の行事に参加し、地域とのつながりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症を理解して頂く一環として、見学や認知症に関する相談、体験学習、ボランティアなどを受け入れ、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元する取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議のメンバーに会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に参加してもらっている。また、外部評価の結果を基にし改善策などについて報告し意見交換を行いサービスの質の向上につなげている。	運営推進会議では、外部評価の結果を報告し改善について意見を出し合い、サービスに活かした支援をしている。行政機関が入る時もあるが、業務上なかなか入れない時がある。又家族の参加もない。	地域のつながりを考えれば、市はもちろん、家族や利用者、町会長などにも声をかけ、参加出来るよう積極的に働きかけることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・困難ケースの場合など、市と連携を密にして対応を図って、利用者の利便性の向上を図っている。	生活支援など困難事例は市と連絡を密にして、サービスの取り組みを相談しながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識に立ち、「拘束は行わない」という姿勢でケアに取り組んでいる。安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するため、状況に応じ錠を開放するなど抑圧感のない暮らしの応援をしている。	職員は身体拘束をしないという理解をしている。自由な暮らしを支援するため状況に応じて、鍵をかけないケアの工夫をしながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・内部研修を通じて、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みをしている。管理者は職員の日々のケアの場を観察するなど虐待を未然に防ぐように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・日常生活自立支援事業や成年後見制度についての内部研修を計画している。これらの制度について必要に応じて、利用者や、家族にも説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・事業所の理念などケアの方針や取り組みについて説明している。利用者や家族が不安や疑問を抱かないように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見を出して頂けるように、玄関にご意見箱を設けている。利用者の言動から本人の不満や意見を察するようにして、サービスの質の確保に努めている。	玄関には意見箱を置いて、自由に意見を頂く環境をつくり、面会時には利用者の状態を報告しながら直接意見を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・自由に発言できる職員会議により、要望意見を聞いている。それらの意見を聞いて、改善・反映させていくことで働く意欲の向上や質の確保に努めている。	職員会議には経営者、管理者が入り職員と自由に意見を交わし提案等も出され、職員は意見を聞いて貰った事で、介護への意欲につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の日々の努力、勤務状況を把握し向上心を持てるように環境を整備している。健康診断なども確実に実施され、職員の心身の健康を保つようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の能力向上の重要性を認識し、経験や習熟度に応じた研修の機会などを設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業の質の確保のため、他法人との交流や連携を図っている。当法人内の能代市にあるGHまつ風との交流・連携を通じサービスの向上や職員の育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用を前提として話を進めるのではなく、まずは利用者の身体状況、思い、希望ニーズを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・まずは、家族の思い、希望、ニーズを把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の実情や要望を聞き、その時点で何が必要かを見極め、出来る限りの対応を行っている。必要に応じ、他のサービスの利用調整を速やかに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の喜怒哀楽に共感し、理解しようとしている。また、得意分野で力を発揮してもらう等、共同で生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族との関係が途切れないように、電話や「さくら通信」で暮らしぶりを伝えたり、ホームを訪れやすいように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人などとの電話や手紙で、連絡を取り持つなど、これまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。	今まで利用していた理・美容を継続するなど、地域の方と馴染んだ環境を維持し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係を把握し、孤立しないように配慮している。それぞれが、持てる力、個性を生かしてもらうことにより良い人間関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も相談や支援に応ずる姿勢を示している。これまでの関係を維持するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・思いや希望、意向などを把握するようにしている。十分に把握出来ない場合は、利用者の視点に立って、意向を把握するようにしている。	本人の希望で家具のほとんどを持ってきている方は側に自分のものがある事で安心している。仏壇を持ってきている方は毎朝お祈りをされている。普段余り自分の意志を表さない方は会話の中から意向を把握して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者の生活歴等について、馴染みの関係を築きながら家族または親類、友人等から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員が利用者を総合的に見る目を養いながら生活リズム(食事や睡眠、排泄時間など)をチームとして把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・アセスメントやモニタリングを繰り返しながら設定期間毎に見直しする以外に、家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直ししている。	アセスメントやモニタリングは各担当者が状況把握し、本人、家族の意向を聞いて、よりよく暮らすために、管理者(ケアマネ)を中心に介護計画を立て支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・その職員しか知りえない事実や、ケアの気づきを具体的に記録するように努めている。日々の記録を根拠に介護計画の見直しをする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常のサービスと移送や外出支援、誕生会などの行事を組み合わせながら、継続的に支援していている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域包括支援センターとの協働はもとより、民生委員や町の商店街、警察、消防などに協力を求めながら安全で豊かな暮らしをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・なじみの医院により継続的な医療を受けられるようにしている。また、認知症の専門医や必要な専門医にも受診できるようにしている。救急時、体調の変化にもすぐに連絡対応できる体制となっている。	今までのかかりつけ医を継続し、家族・本人の望む専門医があるときには受診出来るように配慮し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・早い段階での状況変化や異常に気づいてもらい、いち早く対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・家族とともに早期退院に向けた話し合いを医療機関と行えるように努めている。入院する際は、本人のストレスを軽減するために、情報の提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合や終末期の対応について、利用者や家族、医療機関と早期から意思統一を図っている。グループホームでどこまで出来るか力量を把握しながら、チームで支援する体制を整えている。	入居時に重度化になった場合について説明をし、段階に応じて家族と話し合い、事業所が出来る事の理解を頂き、チームで問題を共有しながら支援する取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あわてずに、確実かつ適切に応急手当や初期対応が取れるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・1年に2回の避難訓練を実施している。また、職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人々や他の事業所の協力が得られるように働きかけを行っている。	避難訓練は年2回実施しているが、地域と合同での訓練は実施されていない。地域柄、事業所には地域の方の出入りが少ない事もあり、普段から地域との関係を築くためにも積極的な働きかけが望まれる。	地域の行事には参加しているので、是非事業所の行事への招待を試み、事業所を知って頂きながら協力が得られ、さらなる馴染みの体制を築いていく事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の言動を否定したりせず、また羞恥心に配慮した介助や声がけをしている。事業所全体で声がけや対応について日々確認し、改善策を話し合っている。	特に排泄介助では、プライドの高い方への対応は言葉がけに気をつけている。同性介護が必要な場合には、対応できる体制を整え、プライバシーを守り、自尊心を傷つけない対応で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・言葉で十分に意思表示できな場合でも表情や全身での反応を注意深く観察キャッチして本人の希望や好みを把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・言動を急かしたりせず、その人のペースに合わせて声がけしている。日常業務を優先せず、利用者の訴えを優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれが出来るようにしている。なじみの美容院の利用なども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食べこぼしのサポートをしながらも、会話を楽しんだり、食事の準備や片付けを行っている。	食事の準備や後片付け、洗い物、お膳ふき、テーブルふき等、それぞれ役割があり、利用者が積極的に職員と一緒にいながら、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日全体を通じて必要なカロリー、水分が取れているか確認している。体調や、運動量、体重の増減などに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・本人の習慣や有する力を活かしながら、食後のうがいや口の中の手入れを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・おむつの使用を減らし、可能な限りトイレで排泄できるように、また気持ちよく排泄できるように支援している。	おむつを使用している方は排泄表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導して便座に座って頂く支援をしている。特に便秘予防でヨーグルト、牛乳は毎日摂取する支援をしている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・1日の食事や排泄、活動状況の見直し、安易に薬に頼らず自然排便を促す工夫を個別に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	・入浴習慣や好みを把握し、入浴方法、利用者の意向を取り入れている。入浴を拒否する利用者には声がけして入浴するように促している。	浴槽は9人でも入れるくらい大きく、ゆったり入浴できる。週3回入浴されており、時間は特に決めていないが、午前中仲間と一緒に入浴を希望される方が多く、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの睡眠パターンを把握し、眠れない利用者については原因を見極め、本来のリズムが取り戻せるようにしている。寝付けない利用者には、付き添ったり、飲み物を提供するなどを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は薬の目的や副作用などを理解している。飲み忘れや、誤薬がないように必ず、服薬中の見守りを行っている。状態変化があった場合は記録し、家族や医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりにあった、役割や楽しみ、気分転換を行っている。利用者が自宅にいる時と同様に嗜好品を楽しめるように、周囲の利用者に配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・利用者の身体状況に合わせ、移動方法や、移動距離に配慮し、気分転換につながるように家族と相談しながら取り組んでいる。	道路から事業所に入る入り口は少し狭いが、敷地内は広く散歩が出来る環境にある。天気の良い時は買い物に出かけたり、家族の来訪時には、一緒に墓参りに行くなど気分を変える支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の意味をよく理解してもらいながら、管理方法を決めて支援している。事業所が利用者のお金を預かる場合は、文書にて同意を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者にかかってくる電話や手紙を歓迎するなどの雰囲気づくりをしている。利用者の能力に応じ代筆するなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・調度品など家庭的な雰囲気が保たれるように工夫している。利用者にとって居心地がよい場所となるように工夫している。	共用空間は温湿度が適度に保たれ、臭気もない。居室はそれぞれ花の名前がつけられている。トイレや浴室には手すりがついており、危険防止の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・人の気配が感じられる空間の中で、一人になれるスペースや、時には2,3人で過ごせるように家具などの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・プライバシーを大切にしながら、安心して過ごせる環境づくりを心がけている。入居前から使用し、愛用していた物など、なじみの物を持ってきてもらうように家族などに働きかけている。	居室には作り付けのタンスがあり、家具や冷蔵庫、暖房器具、仏壇をおいて毎日お参りするなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・場所違いを防ぐ為に利用者一人ひとりの状態を把握し、目印の設置の必要性を見極め、必要な場合に合わせた表示をつけるなどの取り組みを行っている。また危険防止の措置もそれぞれに合わせ行っている。		